

## 巻頭言

学会の活動の重要な柱の一つは学会誌の発行であろう。本学会の学会誌「遊星人」は25巻に達し、発行も「順調」なように感じられる。

私は現在の日本惑星科学会の前身の日本惑星科学連合が発行していた学会誌「惑星科学」の編集世話人をしばらく務めていた。当時は手書きの原稿が多く、まさに隔世の感がある。この雑誌は今やレア物で、持っている人も少ないであろう。いずれにせよ、原稿集めはなかなか大変であった。

その後刊行されている遊星人は原著論文に加えて、総説や連載記事が多数ある。これは探査、理論、観測、実験、物質科学等を基にした惑星科学という幅広い分野の内容や進展を特に専門で無い研究者や学生が理解するには便利な内容であると思っている。また編集委員を中心として次々と新しい連載が企画され、雑誌にこれらが登場することは楽しみでもある。各種の情報を知るのにも役に立っている。

私はある学会の和文誌の編集委員長を2年ほど担当した。原稿の投稿を待つということで記事を集めるのはなかなか大変であった。遊星人の編集委員会もそのような苦勞をされているのではと推察している。ただ、遊星人の場合は記事によっては世話人を置き、その方々が記事を積極的に集めているようである。これが原稿を集めるのには有効ではないであろうか。それを真似て上記の和文誌の場合も世話人をおくように規則の改訂を提案し承認してもらった。

このように学会誌の発行はなかなか大変な業務で、特に原稿集めにはかなりの手間が必要であるが、学会の維持のためにはなくてはならない活動であることは間違いない。学会員の情報交換、成果の発表や解説などの点で非常に重要であろう。今後とも編集委員あるいは世話人の方々が「これならいける」と言う面白い企画と学会員の投稿により遊星人が発展することを願っている。

木村 眞(国立極地研究所)